

越谷も

YES, WE CAN.

「やればできる」

発行日: 2013年1月31日

発行者: チーム白川

No.18号

事務所: 越谷市大里 226-1

TEL/FAX 048-970-8005

# 『トライ&チャレンジ』 Try & Challenge



## 越谷の YES, WE CAN. Part XVII

### ■ 越谷の常識力・市民力が問われている

第46回衆議院選挙は、自民党の大勝で終わりました。しかし、何かすっきりしない憂鬱感が身体の中に残り、日本の混迷、迷走がさらに続きそうな課題満載の新年を迎えました。これは日本を当事者とする日中韓の領土問題をはじめ、グローバル化した世界経済不況の真ただ中にある日本経済が、回復の目途さえ立たないまま、迎えた新年だからかもしれません。

政権交代したからといって、「自公連立政権時代」の失われた20年の反省、「民主党政権3年3ヶ月の検証」ないままの自民党が、たやすく対応できる課題ではありません。越谷に立ち戻ってみれば、政権交代への期待感を打ち消すような次元の市政運営があり、「日本がどうなりうるか」以前の「越谷がどうなっており、どうなりうるか」の常識的な判断すら市民に問えない現状をさらけ出しています。中核市移行を前提にしながら、当初予算に計上できなかった「第三庁舎建設」優先の不誠実な補正予算案を、市民合意なく議決してしまう議会を市民はどう反応すればよいのでしょうか? 32名の市議員諸氏には市民の代弁者の役割をもう一度理解していただくと同時に、2年後市民の評価を受け止め、選択される側に立たなければならぬことの自覚を思い起こす時かもしれません。

100億円近い血税を、将来世代に負担させることへの説明責任を果たすのは、誰なのでしょう。越谷の市政運営は未だこのレベルで停滞していると言わざるを得ません。この非常識さを正していく術は、自立しようとする市民の「フォロワーシップ」以外にありません。今年行われる市長選は、この非常識さを問う有権者の民主主義への挑戦なのかもしれません。越谷に今、求められるのは「未来を搾取する社会から、将来に投資する社会へ」の転換なのではないでしょうか。(西川孝一)

### ■ グラウンドゴルフ

#### 【むさしグラウンドゴルフクラブ】—新規参加チーム

設立3年弱、参加者数35名、代表は高橋十四氏。練習日は週2回(月・木)。場所は東越谷にある越谷第2公園。がんばろう越谷大会には常に30数名以上の参加。上位入賞者が数多く出る強豪クラブだが、競技マナーにも精通している。居住地域にあって地域の中心的存在として、



老若男女問わず生涯スポーツの普及と仲間づくりを目指している。懐が深く他地域からの参加も多い。

(三輪長宏)

### ■ 政経セミナー第2期・第7回特別講座 10/2

第一部「議会基本条例で改革はどう進んでいくのか」と題して長野基・首都大学東京教授より改革を推進することに資する条例を学びました。第二部「中核市に向けた越谷市の課題と展望」と題して、高橋努・越谷市長から平成27年に予定されている中核市への移行に向けた課題を主軸に話して頂きました。今回も参加者によるグループディスカッションが行われ、中核市への移行に際して高橋市長が「負担やデメリットはない」と強調されましたが、各グループ共に市民として「負担やデメリット」の対応を考えるべきではないかとその意見が出されたことが印象的でした。

(渡邊初工)

\* 第8回特別講座(12/1)は次号に掲載します



「チーム白川」の会員を募集しています。問い合わせ先：事務局 岡村 090-3342-3064

# 謹賀新年

新しい年の幕開けにあたり、「チーム白川」第4回総会が無事終了したことを報告致します。

市長選挙が行われる年、「越谷がどうなっており、どうなるか」の発信を通して負担を分配するリーダーシップが機能するよう、皆さんと共にフォローシップを鍛えて行きたいと思えます。タウンミーティングをはじめとする諸行事に是非ご参加ください。



「チーム白川」  
チームリーダー  
伊藤幹夫

## 第110回タウンミーティング -11/24

▶ ティベート -第三庁舎建設の進め方

衆院選挙を目前に、現在までの体制を振り返り、これからの自分たちの行動を考えました。話を聞くうちに、今後の行動が浮かんだ人、浮かばなかった人と、さまざまだったと感ずます。しかしながら選挙を前二前向きな姿勢を作るいい機会となりました。第三庁舎を題材とした本論では、建設費や借金などのお金の問題を越えた、安全安心への責任を主軸に置いた論争に入り、双方の未来への思いが伝わってきました。課題ほどこまごま多難性を入れることが出来るのかと感ずります。(岡田英夫)



第112回は、発言に掲載します。

## 第111回タウンミーティング -12/15

▶ サブテーマ -総選挙への取り組み報告「チーム白川」

二元代表制を活かしていくためには何が必要なのか、当たり前のように体現できていない事が明らかになり、システムを使う側の意識が問われる内容で話が進みました。選挙真っ最中で各陣営の中で何が行われ、何をしたいのかが議論されました。

結果的には選挙後の取り組みに期待せざるを得ないのが現状だと感ずります。(岡田英夫)

次々回第113回は、2/16頃に開催します。

## タウンミーティングに参加して

リタイアしたあと手に入れた自由な時間を、あれこれ楽しめて暮らしていますが、これまで仕事で越谷から東武電車を利用して東京へ出るのみだったので、新聞紙上で「国政」は目で追っていても「市政」には関心なし、越谷の町については持て何も知らない。そんなことでちょっと足元のことが気になりました。

駅頭でたまに頂いて目を通していたピラがきっかけで、タウンミーティングに出かけたのが昨年の4月でした。その時は消費増税の是非について考えるものでした。その後、ごみ焼却場の問題、中核都市移行、第三庁舎問題等、越谷市の抱える問題などについて少し知るようになりました。

その間、これまで見向きもしなかった広報「こしがや」に目を通すと、税金の使われ方、予算・決算の詳報、日常業務としての市政など「市民サービス」がこんな具合に行われているのかと、今更ながら気付くことになりました。

会合でもう一つ意識されてきたのは、当然ですが、議会を構成する議員の皆さんのお仕事です。議員の方々には議会に真に政策の議論をして頂くこと。市民は、そして私は、自分の生活の場所から越谷市並びに「市政」に関心を持つことです。(千間台西 渡辺修二)

## 第7回桜井地区市政報告会 -10/15

3名の政党所属議員の退会が相次いだ、参加した市民全員が報告会の継続を要望、支持した。超党派議員と非ビジのフラットな関係づくりの中で、政策の検証を受けたり、議案賛否の理由を問われたり、税金の使、道の優先順位まで半断を求められるオープンな協議を実施してきた蓄積の継続である。今後は参加市民の報告会運営への参加、他地区議員との交流、議会全体で行う市政報告会実施の促進等を通じて、フォローアップの一段の飛躍が課題となる。

(三輪良夫)



## 「チーム白川」は、越谷市に出る杭となれ!

個党派集団の「チーム白川」は、実に不思議な集団だ。太陽を中心にまわる惑星のように、白川秀嗣議員のまわりをバランスよくまわっている。お互いが責任と義務を分かち合い、均等に、しかも、自分のリズムで小気味よくすすむ。

そして、白川議員とともに息をし、喜び、怒り、悩みを共有している。

そんな、不思議な集団が、越谷市の杭となろうとしている。

越谷市がとんでもない未来に行かないように打ち続ける杭。

越谷市が暴風雨にさらされた時、テントを支える杭。

そして、暴走する越谷市の行政に一喝を与える杭となる。

一年間を振り返り、そんな「チーム白川」の衛星のように、周りから参加させていただきながら、「チーム白川」がもっともっと強く太い杭になるよう期待している。(蒲生 白井徳夫)

## 市民参加への歩み

第46回衆院選挙は可也選ぶべきなのか、自身の基準が問われる、大変悩ましい選挙で、政党?政策?人柄?すべてにおいて納得が出来る状態からのスタートではありませんでした。

だからと言って棄権する勇気は私にはなく、一候補者を全力で応援することで、「負担を分かち合う社会」「自立した世帯」「依存構造からの脱却」を少しでも前に進めるよう行動しました。結果としてもたらされたのは、1年前と違った新しいネットワークとつながり方でした。責任感や信頼といった当たり前の事が崩れてきている現在で本当に貴重な財産だと感ずっています。

皆様の目にも、衆院選挙の結果が各党の大勝と大敗だけではなく、奥に潜んでいる結果責任が見えているのではないのでしょうか。

そのような方々と共に、市民参加のステージが進化した、対話型の市政報告会、タウンミーティング、政経セミナーで、自治の問題に取り組んでいきたいと思えます。(岡田英夫)

編集後記

<http://shirakawa.mie1.net/>

◆衆議院選も当初の予想通り自民党の圧勝、民主党の惨敗という結果となり、有権者は再び政権交代を選別しましたが、私達は政権がどう変わろうとも変わらない地域の問題を抱えています。平成27年4月に中核市への移行を目指す越谷市にとって、市庁舎問題に対する財源対応は、負担を分担するという視点で市民の合意形成が不可欠の課題です。負担を分担するという、これからの政治の役割について、広報誌を通じて市民からの発信を続けて行きたいと思えます。(岡田英夫)